

地域の金融競争度の評価と利用者影響について

Evaluation of regional financial competitiveness and its impact on the area

埼玉大学大学院生 杉山 敏啓

1. 金融寡占度を巡る問題意識

わが国の預金取扱金融機関数は平成年間でおおよそ半減しており、全体として金融寡占化が進んだとみられるが、他方でわが国銀行部門では、金融機関同士の過当競争を背景とした貸出金利低下に伴う低収益性問題も指摘されている。

金融競争度を客観的に評価するために、市区町村別の店舗シェアに基づくハーフィンダール指数（HHI）を計測すると、2000年から2005年頃までは大型銀行合併もあって金融寡占化が進んだものの、その後2016年までの最近約10年間については、銀行合併による寡占化の動向と、地域金融機関の越境出店による競争化の動向とが拮抗してHHIは一進一退であり、全体として金融寡占化は進んでいないことが分かった。

2. 金融寡占化の利用者への影響の整理

金融競争環境を変化させる要因には、個別金融機関の店舗戦略に加えて金融機関合併があるが、金融機関合併は、短期間のうちに地域の金融シェアを激変させて金融寡占化を招くことがある。金融寡占化が進むと、金融機関の市場支配力が高まり、利用者からすると選択肢が減少して銀行等の言いなりになるデメリットが心配される。これでは地域の開業率低下を招くなど企業活力をそぎかねない。

他方、合併による金融機関の大規模化には、経営体力の拡大による金融サービス持続可能性の高まりや、経営効率化に伴う貸出金利や手数料の低下などのメリットも指摘される。これらの影響は複合的に生じるために、いずれの影響力が勝るのが重要な関心となる。

3. 金融寡占化が地域の事業所開業率に及ぼす影響の検証

各地域の期首における金融機関参入状況を示す指標と、期中の事業所開業率との間には正の相関関係が認められる。参入金融機関の増加は起業活動の下支えとなる一方、参入金融機関の減少は起業の阻害要因となる可能性が示唆される。

市区町村別・複数期間パネルデータを用い、事業所開業率を被説明変数として地域の金融市場環境との関係性を分析したところ、金融競争度指標である「店舗 HHI 逆数」の係数符号は有意にプラスであり金融機関の地域参入と起業活動との正の関係性が確認された。そして参入金融機関の内容を説明する「中小・中堅金融機関店舗割合」の係数符号は有意にマイナスであった。中小・中堅金融機関の方が大手よりもリレーションシップ重視型の金融仲介機能に優れていて起業支援力も高いという一般的見方があるが、これの存在感が希薄化しても、金融機関の大規模化に伴う各種メリットが、それをカバーして余る効果を発揮する可能性が示唆された。

以上